

ポスターセッションテーマ

社会システム研究所

- 変圧器巡視点検における熟練者と若手の注視行動の比較 ヒューマンファクター研究センター
人間行動グループ **松井裕子**
- 安全に関する質問紙調査に基づく原子力発電所の
特徴と調査への影響について ヒューマンファクター研究センター
組織文化グループ **福井宏和**
- 原子力産業に従事する組織成員意識の変化に
関する探索的検討 ヒューマンファクター研究センター
組織文化グループ **河合 学**
- 新型コロナウイルス感染症流行下でのテレワークの
実態に関する調査動向 ヒューマンファクター研究センター
組織文化グループ **後藤 学**
濱野和佳
- 組織内の階層性とワークモチベーション ヒューマンファクター研究センター
組織文化グループ **藤田智博**
- トピックモデルによるアンケート自由記述回答の
潜在意味解析 ヒューマンファクター研究センター
組織文化グループ **西田 豊**
- 2019年度美浜町小中学校エネルギー環境教育
質問紙調査結果 エネルギー問題
研究プロジェクト **大磯真一**

技術システム研究所

- スモールパンチ試験による材料強度特性の推定 高経年化研究センター
熱流動・構造グループ **釜谷 昌幸**
- 高低温水合流部の熱疲労防止に向けた取り組み
(数値シミュレーションによる逆流現象の再現) 高経年化研究センター
熱流動・構造グループ **歌野原陽一**
- 高低温水合流部の熱疲労防止に向けた取り組み
(逆流により生じる温度変動の特性) 高経年化研究センター
熱流動・構造グループ **三好 弘二**
- 原子炉容器鋼中の溶質原子クラスタ形成に対する
Mnの影響 高経年化研究センター
材料グループ **藤井 克彦**
- SUS630の高温水中SCC挙動に及ぼす長時間
熱時効の影響 高経年化研究センター
材料グループ **山田 卓陽**
- PWR1次系模擬水中におけるTT690冷間加工材
のSCC発生評価 高経年化研究センター
材料グループ **大厩 徹**
- 熱時効と中性子照射されたステンレス鋼溶接金属の
超微小引張試験 高経年化研究センター
材料グループ **三浦 照光**
- PWR1次系模擬水環境における中性子照射
ステンレス鋼の粒界酸化挙動 高経年化研究センター
材料グループ **三浦 照光**
- 高温水中におけるステライト材の亀裂進展に及ぼす
温度の影響 高経年化研究センター
材料グループ **笹岡 孝裕**
- エルボ管テーパー部の軸方向欠陥に対する超音波
探傷試験条件の検討(その2) 高経年化研究センター
検査技術グループ **市来 隆一**
- 海外における商業用原子力発電所の廃止措置の
現状 原子力情報
研究プロジェクト **新崎 雅志**
- 米国原子力発電所の火災防護検査における
指摘事項の傾向分析 原子力情報
研究プロジェクト **徳久 聡**
- 使用済燃料ピットの水温および水位の簡易評価
ツール・Pit Calculatorの改良(その2) 安全・防災
研究プロジェクト **柳 千裕**
- 統計的安全評価における代替統計モデルの適用 安全・防災
研究プロジェクト **木下 郁男**
- 瓦礫等による放射線源の評価手法を反映した
線量評価システムの高度化 安全・防災
研究プロジェクト **川崎 郁夫**

参加要領ご案内

◆申込方法

下記事務局宛にてE-mailにて次の事項を記載の上、お申し込み下さい。

- ・参加者氏名(フリガナ)
- ・勤務先
- ・電話番号
- ・勤務先役職

お申し込みの方へはWeb会議室招待URLなどをメールにて返信致します。
(なお、申込時の個人情報につきましては、定例講演会の開催案内及び弊社の諸行事等の案内・送付のみに使用させていただきます。)

◆参加費

無 料

◆定 員

200名
大変恐縮ではございますが、運営の都合上の定員とさせていただきますのでお早めの申し込みをお願い致します。

◆申込締切

2020年10月5日(月)

◆研究所施設見学

今回は中止とさせていただきます。

◆お申し込み／お問い合わせ先

〒919-1205
福井県三方郡美浜町佐田64号
㈱原子力安全システム研究所 管理部 研究管理課
(担当者:富田、田辺)
E-mail: seika@inss.co.jp
TEL:0770-37-9100 FAX:0770-37-2008

◆オンライン開催のご案内

- ・研究成果報告は、テレビ・Web会議ツールのZoomウェビナーによるオンライン開催となります。
(Zoomをインストールすることなく、WebブラウザからZoomを使用可能です。)
- ・ポスターセッションは、音声説明による動画配信となります。

第26回研究成果報告会ご案内



日時：2020年10月15日(木)

13時05分～16時10分

場所：オンライン開催

(E-mailによる事前のお申し込みが必要)

福井県三方郡美浜町佐田64号

㈱原子力安全システム研究所

TEL:0770-37-9100(代表)

ごあいさつ

皆様におかれましては、平素より当研究所の活動に対し格別のご理解・ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当研究所では今年度も「研究成果報告会」を開催して私共の研究成果の一端をご紹介します、皆様方のご参考に供するとともに、種々ご教示・ご助言を賜りたいと考えています。

第26回目となる今回は、先般当研究所内で「優秀研究賞」として表彰した研究テーマ等を発表する他、ポスターセッションを開催させていただきます。詳細は、右記プログラムをご覧ください。

また、今回の開催は、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、当研究所での現地開催を中止し、オンライン開催とすることにいたしました。

ご多忙中とは存じますが、何卒万障お繰り合わせのうえ多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

(株)原子力安全システム研究所
取締役社長・所長 橋本 徳昭

プログラム

◆ポスターセッション (11:00~)

研究成果報告会開会(13:05~)

あいさつ 取締役社長・所長 橋本 徳昭

◎技術システム研究所研究報告(13:15~14:40)

座長:技術システム研究所長 三島嘉一郎

- 技術システム研究所の総括報告
技術システム研究所長 三島嘉一郎
- 解析コードMAAP4基盤整備を含めた事象進展予測システムの高度化
安全・防災研究プロジェクト准主任研究員 楠木貴世志
- 原子力の安全性向上を担う人材の育成事業
(実機プラント材料分析による原子炉容器照射脆化評価技術実習)
高経年化研究センター材料グループ主任研究員 山田 卓陽
- 米国原子力発電所の異常事象報告書(LER)に関する傾向分析
原子力情報研究プロジェクト主任研究員 永山 統啓

◆休憩 (14:45~15:00)

◎社会システム研究所研究報告(15:05~16:05)

座長:社会システム研究所長 小泉 潤二

- 社会システム研究所の総括報告
社会システム研究所長 小泉 潤二
- 温暖化対策としてなぜ原子力発電の受容は高まらないか
社会意識研究プロジェクト主席研究員 北田 淳子
- エネルギー問題に関する中間層の受け止めとペルソナの提案
社会意識研究プロジェクト副主任研究員 埴田 幹宏

閉会(16:10)

研究報告概要

●解析コードMAAP4基盤整備を含めた事象進展予測システムの高度化

本研究に先行して、原子力災害時等に事故がどのように進展するかについて重大事故解析プログラムMAAPを用いて予測し、かつ事故の影響を緩和するための操作に有益な情報を提供するシステムを2011年度までに構築した。本研究では、構築したシステムをより実効性のあるものとするため、関西電力の各原子力発電所において重大事故対策等で新規に導入された、1プラント当たり約10種の設備についてMAAPでのモデル化を行った。さらに、関西電力の緊急時に原子力発電所の運転パラメータを伝送・表示するシステム(SPDS)とのオンライン接続等を行った。これにより、複数プラントが発災した場合の同時解析をより迅速に行うことを可能にした。

●原子力の安全性向上を担う人材の育成事業 (実機プラント材料分析による原子炉容器照射脆化評価技術実習)

平成27年度から令和元年度まで実施した資源エネルギー庁「原子力の安全性向上を担う人材の育成事業(実機プラント材料分析による原子炉容器照射脆化評価技術実習)」について、5年間の活動の概要を紹介する。本事業では、電力会社から使用許可を得て、実際のプラントで使用した材料を使用し、材料劣化に関する分析評価技術の実習を行った。またその際、実習を機関横断的に実施する枠組みを構築した。これは、関係機関が連携・研究しながら、人材育成・確保を図る一つのモデルケースとなったと考えられる。

●米国原子力発電所の異常事象報告書(LER)に関する傾向分析

これまで、海外の事故・故障情報を入力し、分析評価し、類似事象が国内の加圧水型軽水炉(PWR)で発生することを未然に防止するために改善提言を行ってきた。今回は入手した情報のうち、公開情報である米国原子力発電所の異常事象報告(LER:License Event Report)を用いて傾向分析を行った。この傾向分析では、機械・電気・計装・発電の職能別に不具合の原因およびその影響や、プラントの安全運転に比較的大きな影響を与え得る内部火災の種類とその原因、外部事象の種類とその影響について分析し、それらの結果から教訓を導き出した。

●温暖化対策としてなぜ原子力発電の受容は高まらないか

近年、異常気象による災害の激甚化など温暖化の影響とみられる被害が顕在化し、脱炭素化の流れも強まっている。エネルギー政策において原子力発電はCO₂削減策として有用と評価されるが、人々はそのようには認識していない。そこで、意識調査により、CO₂削減方法として人々は何を思い浮かべるのか、そのなかに原子力発電の利用は含まれているのかを自由回答でとらえることを試みた。選択回答形式ではCO₂削減や原子力発電の有効性にかかわる知識・認識の実態を把握し、人々が温暖化を実感してもそれが原子力発電の受容にはつながらない要因を分析した。

●エネルギー問題に関する中間層の受け止めとペルソナの提案

エネルギー問題に関してコミュニケーション活動を行う際に、情報の受け手の考え方をよく理解することが求められる。しかし、受け手となる一般の人々の中には、あまり中間的な態度をとる人々が多く存在することが明らかになっている。この中間的な態度をとる人々の考え方や理解を組織的に共有することは難しい。本発表では、このとらえにくい中間的な人々の特徴を2つの質問を用いて分類し、コミュニケーション活動の対応方針を考える際の参考資料となり得る、4つの代表的人物像(ペルソナ)を提案する。